

# 新刊紹介

ウインデルバント著

哲學 概論 清水 清澤 玉川學園出版部刊

「哲學概論」と題する本は少くないが、多くは或哲學者が、その哲學體系を要綱にまとめたものか、哲學上の重要な學語を解釋したり、各種の哲學說を簡單に横觀的に紹介したものが大部分を占めてゐる。然るにウインデルバントの此の著は各種の哲學說を構觀的に紹介すると共に更にそれ以上に、哲學すること、換言すれば實生活や科學に於て無反省的に許されてゐる所の諸の前提を吟味して、此等の前提が如何にして許されるかといふ根本問題を考察發展せしめることを哲學概論の任務と定めて著作されてゐる。哲學概論の意義と職分を最もよく認めた點に於て、この著は不朽の價値を有するであらう。

清水氏は原著の第二版を邦譯されたのであるが、哲學の譯書に屢々見るが如き國文らしからぬ邦譯の弊に陥らず、流暢平明にして然も原文の意味をよく傳へてあると思はれる。恐らく邦文でウインデルバントの哲學概論を讀まんとする人々に裨益する所が多いであらう。

附録に人名及び事項の索引を添へると共に、原著第一版と第二版との相違點の對照表、並びに譯者の加へた註脚を卷末にまとめて添へてあるのも便利である。

朝永博士 選曆記念 哲學論文集 岩波書店發行

本會役員として多年本會の發展の爲に多大の盡力を賜はつた、京都帝國大學教授朝永博士が本年二月選曆に達せられた祝賀記念として、博士の知友門友二十四氏の哲學論文を一巻にまとめて博士に呈上されたのが本書である。純正哲學のみならず、宗教學、心理學、社會學、教育學、美學、佛教學等の各領域に於ける最近研究の最高峯を示すものとして斯學に志あるもの、最も注目すべき論文集であらう。目次は次の通りである。

中觀哲學	羽溪 了諦
實在するものとしての神	波多野 精一
人間學	西田 幾多郎
無記感情について	千葉 胤成
存在論的領域としての「超越」に就て	岡野 留次郎
生命教育學に就て	長 田 新
支那文字の訓詁に於ける矛盾の統一	小 島 祐馬
佛教哲學に於ける「法」の概念と空の辯證法	和 辻 哲郎
死の問題	勝 部 謙造
フイロテの宗教哲學に於ける神の實在性に就いて	河 瀬 憲次
經驗の形而上學と形而上學の形而上學	高 坂 正顯
社會學的史觀について	高 田 保馬
綜合と超越	田 邊 元

マルクスに於ける唯物論の限界……………	土田杏村
現象學に於ける超越の問題……………	務塚理作
製作の過程としての意味すること……………	植田壽藏
形而上學的時間……………	九鬼周造
Die Mitteから das Mittelへ……………	山内得立
薦新賽神の行事……………	赤松智城
シエリングの後期哲學への移り行きに就いて……………	赤松元通
カントに於ける「我の自覺」……………	天野貞祐
理論と實踐……………	木村素衛
宗教的目的論と其止揚……………	菊池慧一郎
精神のモナス的形態……………	篠原助市

**彙報**

**朝永博士の御退職**

京都帝國大學教授朝永三十郎先生は本年二月還曆に達せられ、知友門下の諸氏より祝賀會を受けられたが、ついで三月退職せられた。博士は本會創立以來多年本會の爲に種々御盡力を賜はつたことは感謝にたへないことである。遺憾ながら、今度大學教授の職を退かれるにつけ本會規定により

新刊紹介

本會役員をも退かれることゝなつた。

本會は博士が益々御健康であらせられて、愈々多く學界の爲に盡されんことを祈ると共に、今後も陰に陽に本會の爲めに御援助を賜はらんことを偏にお願する次第である。

**倫理學讀書會**

去る五月二十二日金曜演習室にて午後三時より左の發表あり。

E. Adickes; Kantische von doppelten Affektion unseres Ich als Schlüssel zu seiner Erkenntnistheorie.

湯淺南海男君

同二十九日金曜演習室にて午後三時より左の發表あり。

Brentano; Von Ursprung sittlicher Erkenntnis.

龍野健治郎君

六月十二日金曜倫理研究室にて午後三時より左の發表あり。

Troeltsch; Ethik und Geschichtsphilosophie.

坂田吉雄君

**倫理學研究會例會**

六月十九日金曜京大藥友會館にて午後七時より左の講演あり。

精神科學的經濟學について

經濟學部教授 石川興二君